

あきたの 地域医療通信

2010年1月 第6号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策推進室



秋 秋田県横手市で「地域密着型病院」を目指し、様々な取組をしている市立大森病院の小野剛院長先生にお話をお聞きしましたので、紹介します。

①大森病院の特色

隣接する老人保健施設、特別養護老人ホーム、生活支援ハウス、サービスセンター、高齢者等保健福祉センターと連携をとりながら、保健・医療・福祉・介護が一体となった地域包括ケアを推進しています。その中で継ぎ目のないサービスを提供し、「予防から介護まで」一体となって、医療を中心とした取組を行っています。

②夕暮れ診療

私が就任した平成8年当時、大森病院は患者も少なくそのほとんどは高齢者であり、典型的な赤字病院でした。それを打開するため、病院を利用する患者層を拡大し、学校や職場から帰ってからでも受診できるようにするために、平成9年から「夕暮れ診療」を開始しました。

平日、17時～19時までの診察で、検査、会計等日中とほぼ同様の診療体制が整えられており、利用数も平成10年頃は1日平均20人前後でしたが、現在は30人を超え、最近ではインフルエンザワクチン接種患者さんも含め140人受診という日もありました。夕暮れ診療を始めて、利用者も収益も増加した他に、当直時間帯（20時～）の利用者が減り当直医師の負担がある程度軽減されたことも、効果の一つです。

例えば夕方発熱した子供を受診させず様子を見て（ガマンして）いたお母さんが、その後状態が悪化し夜間救急外来を受診させるというケースがよくありますが、このような場合夕暮れ診療を受診してくれれば夜間救急外



市立大森病院 小野 剛 院長先生

来を受診しないで済むという場合もあります。夕暮れ診療は通常の診療時間として届出をしているため、時間外加算等はなく、患者さんにとっても負担が少なく、病院にとっても夜間救急患者が減るという相互のメリットがあります。

③女性専用外来

女性は女性特有の症状や機能があり、女性医師に診察してもらいたいと言う患者さんも多いです。大森病院では平成15年当時自治医科大学卒業の女性医師が2人配置されており、総合的な診療が可能だという特性を生かし女性専門外来を開設しました。現在は女性医師1人で

週1回、3～4人の診察ですが、時間をかけじっくり話を聞くという診察スタイルで、ニーズは多く県南全域から患者さんが来ています。

また、放射線科の女性技師も採用しましたので、来年度からはより多くの女性に乳ガン検診等を受けてもらえるようにして、女性にも優しい病院を目指していきたいですね。

④臨床研修協力病院としての機能

秋田大学医学部附属病院他6病院から研修医の受入を行っており、年間のべ16～18人程度の研修医が来ています。一人あたり1～3ヶ月の研修期間で在宅訪問診療や施設診療を含めた地域包括ケアの実践や外来・入院診療にあたってもらいます。外来診療は指導医とともに担当しますが、当院はプライマリーケアの最前線であり、様々な症例を経験することができる貴重な研修となっています。

毎週月曜の朝7:30から30分間、秋田大学とともにTVカンファランス（光回線を利用したIPERAシステム）を実施しており、大学、由利組合、山本組合の研修医たちと症例検討やセミナーを行っています。電子カルテシステ



▲秋田大学とのTVカンファランス

ムも導入し、秋田大学との遠隔医療（CT、MRI データの画像診断）を行うなど、IT関連の整備にも力を入れています。

⑤大森病院の考える地域医療

地域医療とは時代によって変化しているもので、今の時代に必要なものは連携と協働だと思います。最近の医療は病院だけで完結できるものではなく、開業の先生や施設、行政等が連携を取って地域全体の医療・福祉として完結していくことがこれからの地域医療に求められているのではないかと考えます。地域住民も協働し一緒になって、病院を盛り上げていこうという機運が高まれば、結果的に地域の中で良い医療体制ができ、ひいては地域を活性化させることに繋がります。病院を元気にして、住民が元気になって、地域が元気になれるようにすることが、地域医療の役割かなと思っています。

⑥医学生、研修医に対するメッセージ

学生と研修医の時は多くの患者さんを診て、いろいろな症例を経験して、総合的な診断が出来るようなトレーニングが必要です。特に高齢者は複合的に病気を持っている人が多く、社会的背景も様々であり、それを含めて総合的に診られるようになることが、将来専門に進んだときに生きてくると思います。

また、機械的に病気だけ診るということではなく、患者さんの視点に立ち心のこもった温かい医療を提供することを心掛けて欲しいです。大森病院では、地域包括医療の後期研修プログラムもありますので、興味のある方はぜひ参加していただきたいと思っています。

※病院データ

標榜診療科：内科・外科・整形外科・小児科・眼科・皮膚科・神経内科・リハビリテーション科 病床数：150床 常勤医師数：10名 H2Oの1日平均外来患者数：284人、1日平均入院患者数：149人

医師臨床研修指導医 ワークショップ

昨年度に引き続き、今年度も平成21年6月12日（金）～13日（土）、11月21日（土）～22日（日）の2回、医師臨床研修指導医ワークショップが開催されました。

厚生労働省の村岡亮臨床研修審査専門官、福井大学附属病院の寺澤秀一先生、揖斐郡北西部地域医療センターの吉村学先生などの講義で、積極的にグループワーク等に参加していただきました。

講習会の義務化を受け、秋田県の指導医の受講率も66%となり、研修医への指導体制も充実されてきています。



▲講師の福井大学附属病院寺澤先生



▲KJ法によるグループワーク

第3回 レジデント・ スキルアップ キャンプ 2009

平成 21 年 10 月 30 日(金) ~ 10 月 31 日(土) に、大潟村のホテルサンルーラル大潟で、レジデントスキルアップキャンプが開催されました。

臨床研修期間中に共通して直面する課題などを解消する能力を身につけるため、主に1年生を対象にしたプログラム内容です。平成 19 年度から始まり、今年で3回目を数え、青森県、岩手県の研修医をあわせた 83 名に参加していただきました。秋田県内の1年目臨床研修医は9割以上の参加となります。

救急室における失神の診断、糖尿病の初期治療など現場ですぐ役立つ講義や、「研修医同士で共有すべき経験・各科ピットホール」と題した各病院からの症例発表など、実践的な内容で、参加者からは「他病院の先生たちがどんな症例を経験しているか共有でき、とてもよかった」「1症例毎の福井大学寺澤先生(コメンテーター)のレクチャーがわかりやすかった」などの声が寄せられました。

また普段なかなか関わりの持てない県内各地、他県(青森、岩手)の病院の先生方との交流を深める機会となっているようです。研修会で得た知識、ネットワークが生まれ、実り多い臨床研修を送っていただけるよう、協議会では来年度も研修会を開催する予定です。



◀平鹿総合病院の
病院紹介



▲CTF 齊藤先生の
出前研修講義



▲「救急をどう研修するか」の
グループワーク

第1回秋田県医学生スキルアップキャンプ

県では、指導医講習会、レジデントスキルアップキャンプ(県臨床研修協議会主催)などドクターを対象とした講習会や、高校生を対象とした「病院一日体験」(県主催)、中高生向けの「秋田県の地域医療への使命感を持った医師育成事業」(秋田大学医学部総合地域医療推進学講座、県共催)など様々な事業を行って参りましたが、今年は新たに医学生を対象としたスキルアップキャンプを10月31日~11月1日の二日間、大潟村のホテルサンルーラル大潟を会場に開催しました。

参加したのは県内外の4年生と5年生の医学生22人。秋田大学医学部をはじめ、自治医科大学、弘前大学、東海大学から県外の医学生も5人参加してキャンプは始まりました。

初日の午前中は、先輩のケースカンファレンス(レジデントスキルアップキャンプ2日目)の聴講で始まり、ランチョンセミナー形式での昼食もそこに隣の部屋に移動、中野恵健康福祉部長の挨拶で開講しました。

プログラムは、2日間で50分の集中セミナーが8つと極めてハードな内容で、秋田大学医学部の先生方に、「内分泌代謝」「小児科」「循環器内科」「産婦人科」「外科」「消化器内科」「呼吸器内科」「腎・血液・膠原病」について講義をいただきました。

夜は、講師の先生方を交えての交流会。学生、教官、大学の壁を越えて大いに盛り上がりました。二日目は多少脱水症状の方もいましたが、最後までみんな真剣に勉学に励んでいました。

初の試みでしたが、アンケート結果では、「他大との交流も大変良かった。普段できないほど集中し、講義を聞けたり、モチベーションの向上につながる大変有意義な合宿であった」という感想に代表されるように、大変好評でした。

秋田大学医学部の全面協力で成功したキャンプでした。あらためて秋田大学の先生方にお礼申し上げますとともに、キャンプに参加された学生が、一人でも多く将来秋田県内で活躍してくれる日が来ることを心より期待しています。



▲集中セミナー「産婦人科」熊谷仁先生の講義



▲モーニングカンファレンス「秋田の現状」をみんなで討議

指導医メッセージ

「総合する専門医・勤務医になろう」

由利組合総合病院
西成 民夫 先生



研修医の皆さん、冬場は感染症の患者さんが増えたり、病院から呼ばれたとき足回りが悪かったりして何かと大変ですが、アクシデントのないように頑張りましょう（院内生活もひとつの方法かもしれません）。現在の日本の国民皆保険制度が当分つづくならば、合併症をもつ老人のみならず、多くの患者さんは総合病院へやってきます。このため、当然専門医でありながら、ある程度総合的に患者さんを把握できる勤務医が求

められているわけです。

私も初期研修はスーパーローテートでした。離島医師を養成する病院で、小児科・外科・内科・産婦人科・皮膚科を回り、また人間ドックの施設で内視鏡や超音波検査を研修しました。おかげで、研修医の先生方に接したり、症例検討会でいろいろな科の研修医先生の発表に質疑応答するときに、大変役立っています。多大な影響を与えてくれた当時のオーベンは、各病院の院長や、総合診療部の教授になっていますが、今でも親交があります。先生方も今はつらいことが多いかもしれませんが、何年かして研修医時代を振り返ったときに、きっとその果実が甘かったと思う日が来る、と私は考えます。

もうひとつ、臨床中心の研修制度ではありますが、医師を続けていくうえで、科学する心を忘れないで下さい。数年間徹底的に臨床をやって大学で研究する、あるいは基礎医学へいく先生もいるかもしれませんが、臨床家であっても、自分の経験の積み重ねから合理的な診断や治療を見出して、それを先生方のネーベンに伝える、学会で発表して他の先生と経験を共有できる、そうした現役医師であり続けましょう。

最後に、学生の皆さんも、よかったらどうぞ当院に見学・実習に来てください。お待ちしております。



あきたの
病院紹介
vol.6

秋田組合総合病院

〒011-0948 秋田市飯島西袋一丁目1番1号
Tel 018-880-3000

1932年秋田医療組合病院として発足し、77年の伝統を有します。秋田市に5つある基幹病院(他に秋田大学医学部附属病院、市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、中通総合病院)のひとつで、秋田港を擁する秋田市北部に位置し、同地域を中心としながら隣接する男鹿市、潟上市、南秋田群地域を担当医療圏とする総合病院です。救急指定病院として一次救急に力を注ぎつつ、あわせて地域の協力病院との連携を図って、プライマリケアと地域医療に重点をおいた研修を目標としています。

診療部門の特徴としては、急性心筋梗塞・脳卒中をはじめとする循環器病、脊椎疾患を中心とした整形外科領域に関して特に力を入れており、救急部門から県内唯一の心疾患リハビリ部門をもつ総合リハビリテーションセンターまで一貫した診療態勢・設備を有しています。また、腎臓病についても県内最大規模を誇る腎臓病センター（人工透析57床）を有する他、保健予防活動では、外来ドック・入院ドック・脳ドックの他、検診車による検診車による健診活動、臨海工業地域などの事業所検診等行っています。



産科・小児科医療を考える県民フォーラムの開催

小児科や産婦人科の医師が不足している中、医療の現状を知り、軽症での安易な時間外受診について、診療を受ける側も問題意識を持ち、これからの地域医療をどうやって守っていけばいいかを考えることを目的とした内容のフォーラムです。御参加をお待ちしております。

期 日：平成22年3月7日(日) 13:30～16:00

会 場：秋田県大館市「ロイヤルホテル大館」

参加対象：一般の方、医療関係者

参加費：無料です。託児もあり



▲昨年の「ここが知りたい!かしこい産み方・医者のかかり方フォーラム」の様子

… お問い合わせ先 …

E-mail : ishikakuho @ pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策推進室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号